

技術開発完了報告

関東森林管理局

課 題	コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験				開発期間	平成27年度～29年度		
開発箇所	茨城森林管理署 管内	担当 部署	森林技術・支援 センター	共同研 究機関	森林総合研究所 林木育種センター		技術開発 目 標	①
開発目的 (数値目標)	<p>エリートツリーは、集団林等から選抜された成長が格段に優れた系統である。そこで、林木育種センターでは、早急なエリートツリーの普及を図るため、これらのクローン個体を利用してエリートツリーの人工交配によって得られたF2個体を育苗しているところであり、今後試験地に植栽し成長量を調査するとともに、下刈り回数の軽減状況、最適な植栽密度及び間伐時期を解明し、林業従事者にエリートツリーの優秀性をアピールできる場としたい。</p>							
実施経過	<p>○平成27年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コンテナ苗の植栽 2 コンテナ苗の植栽後の樹高調査 3 下刈り 4 成長量調査 <p>○平成28年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 裸苗の植栽 2 裸苗の植栽後の樹高調査 3 下刈り 4 成長量調査 <p>○平成29年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 下刈り 2 成長量調査 3 完了報告作成 							
開発成果等	<p>エリートツリー（第二世代精英樹）の種子から育成した苗木（F2集団）、第一世代精英樹の種子から育成した集団（F1集団）及び在来スギから採取した集団（在来集団）を植栽した。27年度にはコンテナ苗を、28年度には27年度と同じ系統の裸苗を植栽した。</p> <p>成長量に関しては、裸苗では、植栽直後の樹高ではF1集団やF2集団の方がやや高い傾向がみられたが、1成長期後ではその差はさらに開く傾向にあり、年間成長量はF2集団やF1集団の方が上回っており、当初想定した結果となったが、F2集団とF1集団の間ではその差はほとんどなかった。一方、コンテナ苗では多くの苗が植栽直後から兎による食害を受けたため、当初期待したF2、F1及び在来の各系統間の成長比較が出来なかった（参考のためデータは掲載した）。</p> <p>下刈りに関しては、今回の技術開発期間においては、植栽木がいずれの系統でも下刈り不要な樹高に達しなかったため、毎年実施した。</p> <p>なお、本試験地は、茨城森林管理署主催で森林整備センター関東整備局、日光署、塩那署、茨城署職員の合同研修及び関東森林管理局主催の若手職員の研修の場として活用している。</p>							